

カラダもココロも健康に

いきいきらしいふ

no.87
2025.SPRING

徳大病院だより

特集

進化する血液がん治療

■CLOSE UP

薬剤部について

■徳大病院ニュース

- ・“ホスピタルギャラリー be「木の鳥」展”を開催しています
- ・徳島大学病院フォーラム2025春を開催しました
- ・減塩セミナーを開催しました

■tokudai-staff information



進化する血液がん治療

かつては治療が難しい病気とされた血液がんですが、新しい治療技術が生まれ、現在では最も完治一つになっています。今回は近年大きく進歩している血液がんの治療法について、血液内科の松岡診療科長に伺いました。

血液がんとは

血液がんは造血器腫瘍とも呼ばれ、血液細胞が「がん化」したものです。血液がんはがん化した血液細胞の種類や増殖する場所などから細かく分類されており、症状

血液がんの治療法

これまで長い間、血液がん治療の中心は抗がん剤による化学療法でした。近年では、従来からの化学療法に加え、分子標的療法、免疫抗体療法、遺伝子改変免疫細胞療

分子標的療法

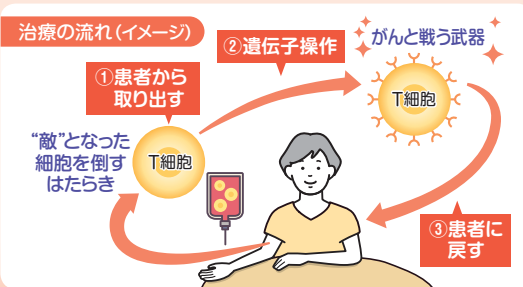
化学療法剤はがん細胞だけでなく正常な細胞も攻撃してしまうのに対し、分子標的薬はがん細胞に特徴的なタンパク質を標的としてがん細胞を攻撃するため、正常な細胞に与える影響が小さい。

免疫抗体療法

がん細胞に引っ付く抗体を投与して、がんの増殖を抑制する。近年、免疫細胞とがん細胞の両方に結合して二つをつなげることで、免疫細胞ががん細胞を攻撃しやすくする二重特異性抗体が開発され、大きな効果を上げている。

遺伝子改変免疫細胞療法（CAR-T療法）

患者さんから免疫細胞を取り出し、遺伝子改変によりがん細胞を攻撃できるよう強化してから体に戻す。



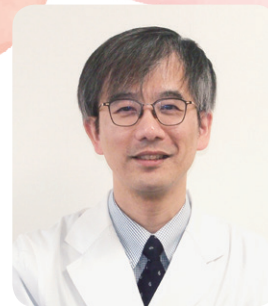
も種類によって異なります。大きく分類すると、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫に分けられます。

法(CAR-T療法)、造血幹細胞移植などの新しい治療技術が日常診療に定着し、これらを患者さんの状態に合わせて適切に組み合わせることで、より効果的な治療が可能

しやすい悪性腫瘍の療科長に伺いました。

■説明は
徳島大学病院
血液内科 診療科長
松岡 賢市
(まつおか けんいち)

■お問い合わせ先
血液内科外来
Tel: 088-633-7118



患者さんへ ひとこと

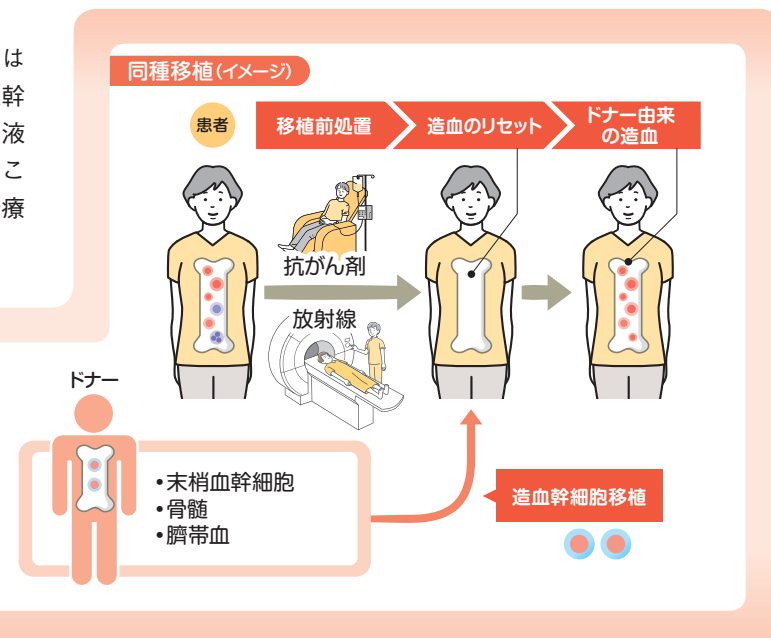
血液がんの治療は大きく進歩しています。患者さん一人一人に寄り添った治療を目指し、チームで取り組んで参ります。

となっています。

薬物療法や放射線療法による治療だけでは治すことが難しい血液がんに対しては、造血幹細胞移植を行います。造血幹細胞移植は、血液のもとになる健康な造血幹細胞を移植することで、血液全体を健康なものに置き換える治療法です。

造血幹細胞移植

患者さん自身からあらかじめ採取しておいた造血幹細胞を用いる「自家移植」と、ドナーから採取した造血幹細胞を用いる「同種移植」(右図)に分類される。



本院血液内科では、遺伝子検査による診断に基づき患者さん一人一人に合った治療法を選択する「個別化医療」を行っています。今年の春からは遺伝子検査を多くの患者さんに拡充し、さらに推進していく予定です。また、四国

で初めてとなる多発性骨髄腫に対するCAR-T療法も春から血液内科で開始されます。こうした新しい治療技術を積極的に取り入れながら、より効果的で安全な医療を提供できるよう今後も努めていきたいと思っています。

CLOSE UP!



薬剤部について

薬剤部では、調剤をはじめとする幅広い薬剤業務を通じて、患者さんが安全に治療を受けられるよう努めています。今回は、その業務内容や安全に対する取組についてお話を伺いました。



● 徳大病院の薬剤師のお仕事

薬剤師とは、医薬品全般について幅広い知識を持つ「薬」の専門家です。医療機関や薬局で調剤や服薬指導、薬の管理などを行います。特に大学病院においてその業務内容は幅広く（下図参照）、本院薬剤部は院内で扱う全医薬品の安全管理と適正使用を推進する役割を担っています。

本院では全病棟に専任薬剤師を配置しており、入院か

ら退院まで、すべての薬物治療に関わっています。入院時には患者さんの持参薬を確認し、継続して使用するか一時中止するか医師と協議します。そのまま服薬を続けていると入院中の治療や検査に影響が出ることもあるので、正確な確認が必要となります。服薬状況の確認は、患者さんの治療を最適化するとともに、併用禁忌や副作用等のリスク

薬剤部の主な業務

- ・調剤
- ・院内製剤
- ・薬物血中濃度測定・解析
- ・チーム医療
- ・医薬品管理
- ・医薬品情報管理
- ・病棟業務
- ・教育活動



多くの医薬品の管理を行う



■説明は(右から)
徳島大学病院
薬剤部長
石澤 啓介(いしざわ けいすけ)
薬剤師(病棟業務管理担当)
小川 敦(おがわ あつし)

患者さんへ ひとこと

薬のことで分からないことが
あれば薬剤師にご相談ください。
受診の際は、お薬手帳を持参
してください。

を回避する非常に重要な業務です。

また、患者さんが適切に薬を使用できるよう、正しい使用方法や使用量、副作用に関する注意点等について、丁寧な説明を心がけています。薬の説明というと難しい内容になりがちですが、患者さんにも分かりやすいよう説明書を用いながら服薬指導を行っています。

その他、患者さんの薬の血中濃度を測定・解析することで最適な投与量、投与法を提案したり、医薬品に関する最新の情報を収集し院内スタッフに情報共有したりと、その業務は多岐にわたります。また、安全管理、感染対策、周術期管理など、さまざまなチーム医療にも参加し、組織横断的に業務を行っています。

● 薬剤師の育成

臨床業務のほか、次世代の薬剤師の育成も重要な業務のひとつです。抗がん剤治療に専門的な知識を持つがん専門薬剤師の育成、一定水準以上かつ多領域における薬物治療の知識を持つ薬物療法専門薬剤師の育成のほか、薬学部生の実習指導や地域の調剤薬局の薬剤師を受け入れて研修を行っています。学生や地域の薬剤師の教育を通じて、地域医療にも貢献できればと思っています。

近年、薬剤師の業務は「対物」から「対人」にシフトし、患者さんのケアを中心とした業務の重要性が高まっています。本院薬剤部では、患者さんに寄り添うことのできる薬剤師の育成を目指して今後も取り組んでまいります。



専門薬剤師育成のための講義の様子

徳大病院ニュース 徳島大学病院の最新情報をお届けします

TOKUDAI BYOUIN NEWS

“ホスピタルギャラリー be「木の鳥」展”を開催しています

本院では武蔵野美術大学との共同研究により、「美術」と「医術」のコラボレーション、「美(b)」と「医(e)」のコラボレーションとして、ホスピタルギャラリー beを西病棟1階に設置し、県内作家の作品や武蔵野美術大学の学生作品を展示しています。

令和7年4月21日から令和7年8月23日の期間、故・前田誠之助氏の作品を展示しています。本院にお越しの際は、是非ご覧下さい。

期間：令和7年4月21日(月)～令和7年8月23日(土)

場所：ホスピタルギャラリー be(西病棟1階ロビー) 協力：武蔵野美術大学



徳島大学病院フォーラム2025春を開催しました

令和7年3月9日、徳島大学蔵本キャンパス内の大塚講堂において市民公開講座「徳島大学病院フォーラム2025春」を開催しました。今回は「健康寿命の延ばし方～フレイル・ロコモ・サルコペニアとは～」と「がんの早期診断と治療」と題した2部構成で実施しました。

参加者の方々は、本院の第一線で働く専門医の話に熱心に耳を傾けておられ、本フォーラムは盛況のうちに終了することができました。

減塩セミナーを開催しました

令和7年1月12日(日)、吉野川市文化研修センターにおいて、徳島大学病院薬剤部の主催で市民公開講座「塩分の減らし方 正しく知って取り組もう」を開催しました。

また、特別講演では、地域における減塩食の普及に向けて精力的にご活動されている一般社団法人ソルコンクラブ代表の日下美穂先生にお越しいただき、減塩食メニューの紹介や小学校での減塩教育についてご講演いただきました。



病院長
西良 浩一
(さいりょう こういち)

徳島県民皆様の安心を約束

2025年4月から徳島大学病院・病院長を拝命しました。私の徳島県民の皆様への決意は、「皆様の健康面での安心を約束する」ことです。徳島県は、地理的に他の県への移動が困難です。病気の治療のために他の県へ受診しにくく、どのような疾患でも県内で完結させる必要があります。私も徳島県における唯一の大学病院です。県民の皆様へ「世界に誇れる最高水準の治療を提供する」義務がございます。県民最後の砦として、常に最高のそして最新の医療を行うべく職員全員で精進いたします。

もう一つの役割は「未来の診断法・治療法を創る」ことです。現在の医療レベルでは解決できていない、より良い次世代医療の開発です。徳島大学病院のキャンパスには、医学部・歯学部・薬学部の他、医科栄養学科、保健学科と、サイエンスに溢れています。さらに医工・医光・医農連携も進み、医療イノベーションの最高の環境です。新しい医学への挑戦を継続し、県民皆様の誇れる病院を目指します。我々の新しいプロジェクトをいろんな形で発信いたします。県民の皆様を知って、育てて、支えていただきたく存じます。



治験を実施しています

現在、開発中の医薬品の候補（治験薬）あるいは医療機器を用いた治験を、以下の病気を対象に実施しています。参加いただいた患者さんにおけるデータを集め、有効性や安全性を確認して医薬品や医療機器としての「承認」を得ることが治験の目的ですが、参加いただいた患者さんにとって良い効果をもたらす場合もあります。まずは、よく情報を得ていただきたいと思いますので、**お気軽にお問い合わせください。**

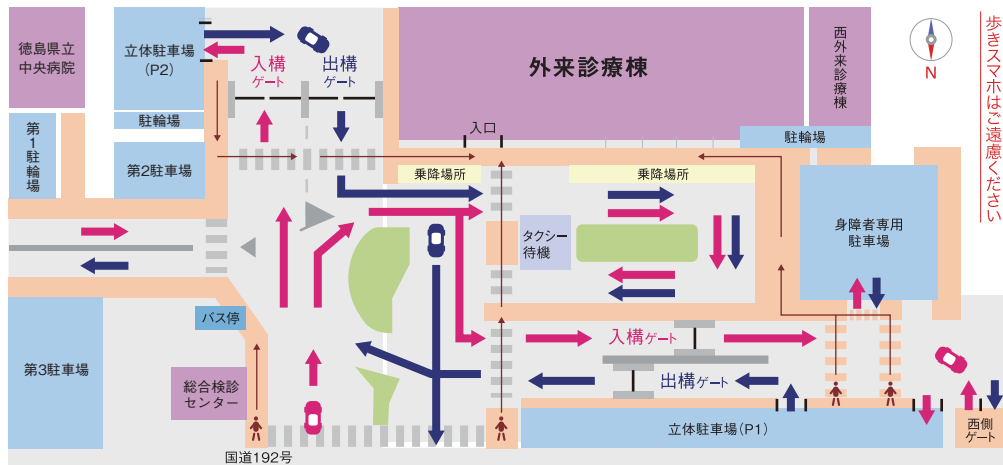
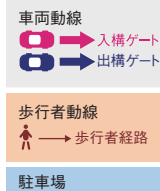
ご協力をお願いします。

- 肺がん
- 乳がん
- 大腸がん
- 尿路上皮がん
- 急性冠症候群
- パーキンソン病
- 統合失調症
- ALアミロイドーシス
- 金属パネアルレルゲン
- 原発性IgA腎症
- 筋萎縮性側索硬化症
- 特発性肺線維症 (IPF)
- 慢性流涎症
- ネフロローゼ症候群

- 心房細動および心房粗動
- 全身性強皮症を伴う間質性肺疾患
- 慢性炎症性脱髄性多発根神経炎
- および多発性運動ニューロパチー
- 皮膚潰瘍



問合せ：総合臨床研究センター
tel.088-633-9294



歩きスマホはご遠慮ください

各相談室・検査の連絡先

- **患者支援センター**〔難病・てんかん・高次脳機能障害など医療福祉相談〕
Tel / 088-633-9107 (8:30 ~ 17:00 (休診日除く))
- **がん相談**
Tel / 088-633-9438 (8:30 ~ 17:00 (休診日除く))
- **緩和ケア相談**
Tel / 088-633-7457 (8:30 ~ 17:00 (休診日除く))
- **肝疾患相談**
Tel / 088-633-9002 (8:30 ~ 17:00 (休診日除く))
- **脳卒中・心臓病等に関するご相談**
Tel / 088-618-0171 (8:30 ~ 17:00 (休診日除く))
- **遺伝カウンセリング**
Tel / 088-633-9218 (9:00 ~ 17:00 (休診日除く))
- **セカンドオピニオン**
Tel / 088-633-9654 (9:00 ~ 17:00 (休診日除く))
- **総合臨床研究センター〔治験〕**
Tel / 088-633-9294 (9:00 ~ 17:00 (休診日除く))

徳島大学病院へのご寄付

本院では、一層充実した医療を提供するために、寄付金という
かたちで皆様のご厚志を生かしていきたいと考えています。皆様
のご支援は、①病院設備・サービスの充実 ②診療環境の充実
③医療スタッフの育成 ④地域医療への貢献のために充てさせて
いただきます。ご寄付いただける心から感謝いたします。

- 寄付者のご芳名 ご同意していただいた方に限り、ここにご芳名を掲載させていただきます。
※2024/11/1～2025/1/31時点(順不同)
土内 彰様 玉井 南海夫様 綱木 哲夫様
楠木 正志様 藤井 春奈様 植村 新様
- お申し込み状況 総件数: 24件 総額: 11,021,000円
※2024/4/1～2025/1/31時点
- お申し込み方法 徳島大学病院のホームページでご覧いただけます。来院中のお申し込みは、経理調達課経理・管理係または、お近くの当院スタッフまで申し出ください。
- お問い合わせ 経理調達課経理・管理係
(月～金8:30～17:00) Tel / 088-633-7016



〒770-8503 徳島県徳島市蔵本町2丁目50-1
<https://www.tokushima-hosp.jp/>

■ご意見・ご要望は右記までお寄せ下さい。bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp

発行者	病院長 西良 浩一			
編集部会長	石澤 啓介			
広報委員会	川人 伸次	原田 雅史	滝沢 宏光	板東 美香
委員	藤井 志朗	久保 亜貴子	大川 敏永	桐野 靖
	武川 香織	戸崎 美鈴	兒玉 実和	金子 由起
	松木 由美	井田 陽子	藤原 慶一	木田 真和
事務担当	総務課広報・企画係 Tel.088-633-7697			